

小・中学校の適正規模・適正配置について

1 小林小学校の統廃合等の検討について

(1) 小林小学校の統合等に関する基本的な考え方

平成29年12月10日に説明会を開催し、関係学校の保護者や地域住民を対象に、適正規模・適正配置に関する基本方針の概要及び現状を説明した。

説明会では、統合に否定的な意見や、市の施策に関する要望などがあつた。

一方で、同じ地域を学区としている菖蒲南中学校については、生徒数や学級数の状況等により、教育環境の改善を図る緊急性が高いことから、同校の統廃合等の検討を優先して進めることとなり、菖蒲中学校と統合し、令和4年4月1日に新校菖蒲中学校が開校した。

小林小学校の統廃合等については、菖蒲南中学校の統廃合等の検討のなかで意見を伺ってきたが、統合の相手校、統合の時期など未定である。

(2) 今後の課題

小林小学校の統廃合等については、菖蒲南中学校の統廃合等の検討を優先して進めてきたなか、小林小学校の学区が隣接する栢間小学校の児童数が減少傾向であり、また、将来的に菖蒲地区の各小学校の学級数は、6学級となる見込みである。

このようなことから、小林小学校をはじめ小規模化が見込まれる学校については、学校の位置やスクールバスなどの通学方法を踏まえ、適正配置・適正規模の方策を検討していく必要がある。

2 鷺宮西中学校区における義務教育学校について

(1) 新校の名称案

令和4年11月18日に開催した「鷺宮西中学校区における義務教育学校設立準備委員会」第3回会議において、関係学校の児童生徒を含めた各家庭から募った候補の中から、委員の投票により、名称案は「久喜市立鷺宮西小中学校」が最多得点となった。

(2) 学校施設の整備

義務教育学校の設置にあたり、既存の鷺宮西中学校の校舎では教室数が不足するため、前期課程1年生から4年生までの校舎の増築を計画している。

令和5年2月から令和6年6月まで基本設計及び実施設計を行い、令和6年9月頃から令和8年1月頃を目途に校舎増築工事を予定している。

また、校舎の増築のほか、開校までに屋外運動場や屋内運動場の整備を予定している。

3 本町小学校の学校統廃合等の方向性について

(1) 本町小学校の統廃合等の方向性に関する考え方

本町小学校は、校舎等の施設や設備の老朽化が著しく、教育環境の整備・改善が喫緊の課題となっている。

同校の学区が隣接する久喜北小学校が、令和8年度に6学級となる見込みであり、久喜北小学校の統合等を検討する場合は、その際の相手校として、本町小学校が最も有力な候補であることから、本町小学校の老朽化への対応を迅速に進めるため、統合した場合の新校の位置を検討している。

(2) 経過概要

本町小学校の学校統廃合等の方向性についての検討を進めるため、久喜市教育委員会令和4年4月定例会において、久喜市立小・中学校学区等審議会への諮問について可決され、令和4年6月8日開催の令和4年度第1回久喜市立小・中学校学区等審議会に諮問した。

令和4年6月から12月までにおいて、久喜小学校・本町小学校及び久喜北小学校のPTA代表者などを対象とした懇談会、久喜北小学校及び本町小学校の保護者を対象とした説明会、久喜北小学校及び本町小学校区内の区長を対象とした説明会を開催し、ご意見などを伺った。

説明会後には、学区等審議会へ説明会でのご意見などについて報告し、ご審議いただいている。

また、令和4年12月下旬に、久喜北小学校及び本町小学校の保護者を対象に、「久喜市立本町小学校の学校統廃合等の方向性についてのアンケート調査」を実施し、将来的に本町小学校と久喜北小学校を統合する必要性が生じた場合、「新校の位置を現在の本町小学校の位置とする」教育委員会の検討案についての賛否を伺った。

(3) 今後の課題

統合等の方向性として新校の位置が決定した後、学校施設の老朽化の解消について、早急に進めていく必要がある。

4 今後の適正規模・適正配置の取り組み（案）

「第2次久喜市総合振興計画（前期基本計画）」及び「第3期久喜市教育振興基本計画」の計画期間である、令和5年度から9年度までの5年間については、令和8年4月の開校を目途としている鷲宮西中学校区における義務教育学校及び教育環境の整備・改善が喫緊の課題となっている本町小学校の2校を中心に、適正規模・適正配置の取り組みを進めていく。

5 これまでの説明会における主な意見や要望

- ・通学路の安全について
- ・スクールバスの運行について
- ・学校施設の老朽化について
- ・学校廃止後の跡地活用や避難所、選挙投票所について
- ・統合後の地域コミュニティの存続について